

『八積駅周辺地区』 都市再生整備計画事業

事後評価の概要について

■ 事後評価シートの公表について

長生村では、平成30年度から令和2年度にかけて、「人々が集い、交流し、いつまでも快適に暮らせるまちの実現」を掲げ、「八積駅周辺地区の駅前空間の整備や駅周辺の利便性向上」や「多くの人々が利用・交流できる公共施設の機能向上による賑わいの創出」に取り組む、都市再生整備計画を策定し、事業を行ってきました。

事業終了に際し、実施した事業の効果について、事後評価を実施し、まちづくりの成果や今後のまちづくりの方針等を確認するため、事後評価シートを作成し、別途とりまとめています。その主な評価の内容を公表します。

■ 都市再生整備計画とは

都市再生特別措置法に基づき、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的に村が策定し、その内容は、地域が抱える課題やまちづくりのビジョンに基づき、まちづくりの目標を達成するために事業や効果を図る指標を記載した計画です。また、この計画に基づく事業の経費の一部に、国から交付される交付金を活用することができます。

■ 事後評価の実施手順

R4.1	方法書の作成	R4.3.16-23	事後評価シート原案の住民公表
R4.2	事業効果の計測・実施過程の評価	R4.3.25	評価委員会の実施
R4.2	事後評価シート原案の作成	R4.3 末	事後評価シートの国への提出
R4.3.11	庁内検討会の実施	R4.4～	事後評価結果の住民公表

まちづくりの目標

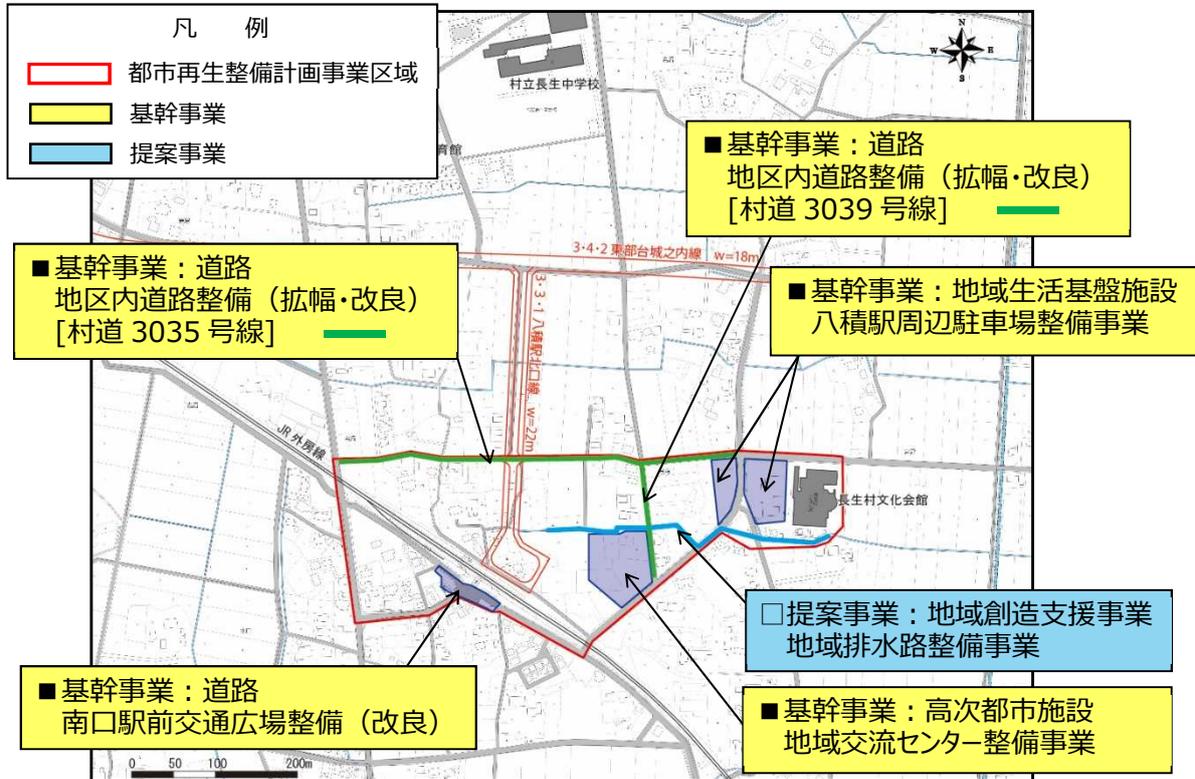
目標：人々が集い、交流し、いつまでも快適に暮らせるまちの実現

目標1：八積駅周辺地区の駅前空間の整備や駅周辺の利便性向上

目標2：多くの人々が利用・交流できる公共施設の機能向上による賑わいの創出

■『八積駅周辺地区』のまちづくりの概要

面積：約 10.6ha
 事業期間：平成 30 年度～令和 2 年度
 事業費：約 16 億円
 事業内容：南口駅前交通広場改良、地域交流センター整備、道路整備 等



主な事業とその成果

①南口駅前交通広場の改良



整備前



整備後（ラウンドアバウト交差点）

以前の南口駅前交通広場は、駅への送迎車と、駅を利用しない通過車両が交錯し、交通安全上危険でした。

送迎者用の一時停車帯を整備し、通過車両の動線を確保したことにより、車線が整理され、スムーズな走行ができるようになりました。



送迎車両の一時停車帯

②道路の整備

＜村道 3039 号線（交流センター東側の道路）＞



＜村道 3035 号線（文化会館につながる道路）＞



整備前は道路幅員 5 m だった道路を 6 m に拡幅し、片側に歩行帯（グリーンのライン）や交差点部のゆとり空間等を整備し、安全で快適な道路空間となるように配慮しました。

③長生村交流センターの整備、防災備蓄倉庫の整備



老朽化した中央公民館の機能を向上させ、令和 3 年 6 月 13 日にオープンしました。

自由に使える学習室やふれあいルーム、子育てルームなどがあり、人々が集い、交流し、誰もが健やかに楽しく過ごすコミュニティを育む「場」として、また駅近の利便性を活かし、さらに、交流拠点として多世代にわたって利用できる、子育て世代にも高齢者にも誰もが使いやすい施設となりました。



■ 事後評価の概要

事後評価結果は以下のようになっています。

指標の達成状況

① 定量的な評価の結果

計画の中で設定した数値指標の達成状況は、以下の通りです。

指標名	事業前の 数値	事業後 の目標値	評価値	達成度	1年以内の達 成見込み
指標 1 駅利用者満足度（利便性）	50% (H29)	80% (R3)	—	—	—
指標 2 交流センター利用者満足度 (利便性)	45% (H29)	70% (R3)	—	—	—
指標 3 交流センタークラブ会員数	723 (H29)	830 (R3)	817 (R3)	△	あり
その他指標 1 駅周辺の満足度	—		52% (R3)		—
その他指標 2 道路利用に対する満足度	—		60% (R3)		—
その他指標 3 交流センターに対する満足度	—		39% (R3)		—

<指標 1：駅利用者満足度（利便性）>

駅周辺利用者以外に対しても満足度をはかるものであり、事業効果や達成状況をより正確にはかるその他指標（「その他指標 1、その他指標 2」）を設定したため、計測不能としました。

<指標 2：交流センター利用者満足度（利便性）>

交流センター利用者だけの満足度をはかるものであり、長生村における交流センター立地の意義や事業効果をより正確にはかるその他指標（「その他指標 3」）を設定したため、計測不能としました。

<指標 3：交流センタークラブ会員数>

設定した目標値は上回らなかったが、従前値である平成 29 年度は上回ったため、目標達成度を△としました。コロナウィルスの影響により、来場を控えている住民が多いため、1年以内の達成見込みは「あり」と判断しました。また、従前値と比較すると会員数は約 15%増加しており、事業効果が発現していると考えます。

<その他指標 1：駅周辺の満足度>

八積駅周辺の南口駅前交通広場や村道等の基盤整備を行うことにより、駅周辺の利便性がよくなり、住民意識調査の結果、駅周辺について 52%の満足度が得られました。

<その他指標2：道路利用に対する満足度>

南口駅前交通広場の改良や村道の拡幅及び歩行帯整備により、安全で利用しやすい道路環境の整備が進み、住民意識調査の結果、道路利用に対して60%の満足度が得られました。

<その他指標3：交流センターに対する満足度>

交流センターは、駅前の新しい村の顔となり地域の核となる施設として、これまでの中央公民館に、交流拠点機能を付加し整備しました。子育て仲間と交流ができる「子育てルーム」や住民が気軽に立ち寄れる「ふれあいルーム」など多世代にわたって交流し、楽しく気軽に利用できる場所が創出され、住民意識調査の結果、交流センターに対して39%の満足度が得られました。ただし、コロナウィルスの影響等により未利用者の回答が約8割もあったため、利用者の回答に限定すると72%の満足度が得られました。

②定性的な評価

上記の数値的な評価の他、住民意識調査の結果、以下のようなご意見をいただきました。

[駅周辺整備について]

- ・送迎用一時停車帯が出来て、以前よりスムーズに通れるようになって大変良い。
- ・ラウンドアバウト交差点は、慣れないため使いにくい。

[交流センター整備について]

- ・自習室が集中しやすくて助かっている。
- ・綺麗になり赤ちゃんを連れていきたいと思える場所になった。
- ・部屋数が増え、設備も整い綺麗で、バリアフリーで気持ちよく利用できている。
- ・友達ができそうな気軽な空間がとても気に入った。

まちの課題の変化

今回の事業によって、まちの課題がどのように変わってきたのかをまとめました。

- ・南口駅前交通広場は、ラウンドアバウト交差点に改良し、送迎者用の一時停車帯を付加したことで、安全で快適な交通広場となった。一方で、八積駅にはバス・タクシーの乗降場がなく、利用するには徒歩または自動車等による送迎となるため、整備した一時停車帯の台数では不足する可能性がある。
- ・村道（3035号線、3039号線）を拡幅・歩行帯（片側）を整備したことで、安全で快適な道路空間となった。また、村道は周辺の公共施設をつないでおり、道路ネットワークの充実に寄与している。一方で、公共施設は駅北口周辺に立地しているため、公共施設と駅をつなぐ道路ネットワークが求められている。
- ・子育て支援機能を加えた交流センターを新たに駅前へ整備したことで、多世代にわたって交流しながら楽しく過ごせるようになった。

今後のまちづくりの方策

今回の事業を踏まえ、今後のまちづくりの基本的な考え方についてまとめました。

- ・安全で快適な道路環境を持続させるため、道路の適正な維持管理に務める。また、交差点に横断歩道等の交通安全施設を設置する等、さらなる安全で安心な道路環境の創出を図る。
- ・地域コミュニティの醸成を図るため、施設やクラブの周知活動の実施や活動内容がより魅力的になるよう更新する等、施設利用の活性化を図る。また、安心して利用できる施設として引き続き適正な施設管理を行う。
- ・駅北口と公共施設をつなぐ道路ネットワークの充実のため、駅北口及び北口駅前広場等の整備を行い、北口周辺に立地している公共施設と利便性の高い道路ネットワークの構築を目指す。
- ・北口広場を整備し、バス路線を計画する。

以上